

認定NPO法人 JUON NETWORK

ANNUAL REPORT 2024

2024.4-2025.3



JUON NETWORKの創立



左 / 創立総会（1998 年徳島・池田町 / 現・三好市） 中央 / 間伐材製ミニハウス 右 / 佐渡の鳥越文庫

● 1998年4月に設立

JUON NETWORK は、大学生協と「人・自然・環境」に心を馳せる者たちによるネットワークから生まれました。

● 阪神淡路大震災

1995 年に発生した阪神淡路大震災の際に、大学生協では兵庫に約 240 室の「仮設学生寮」を建設し、2 年間運営しました。その学生寮の一部は、「間伐材」を使用したミニハウスでした。これは徳島県三好郡（当時）の行政や林業関係者から提供いただいたものであり、芦屋のテニスコートの上にカラフルな 58 棟の「村」が出現しました。

● 木と森への感謝

このミニハウス建設を契機に、大学生協と三好の方たちとの交流が始まり、それを通じて、木材が売れないために、森林の手入れが進まず、森林が荒廃の危機にあることを知ったのです。

同時に、森林には水源の涵養・災害防止・二酸化炭素の吸収など私たちの生活に密着した多面的機能があることも知りました。

● ボランティア元年

阪神淡路大震災の際には、全国から学生をはじめとして多数のボランティアが駆けつけました。後に「ボランティア元年」と位置づけられる由縁です。この機運は一時的なものに留まらず、1998 年施行の「特定非営利活動促進法」（NPO 法）につながりました。

JUON NETWORK も、大学生協関係者と廃校を利用した施設運営推進者（埼玉神泉村・新潟佐渡・富山利賀村）、そして震災でつながった神戸・徳島三好の、志を同じくする者が、「協同」「共助」の社会を目指すことも目的に設立しました。

JUON NETWORKの名称の由来

最後の棟梁と称された宮大工の故西岡常一さんの著書にある「今になって、緑や、自然やゆうても……。」ところが、このことにお釈迦様は気がついておられた。『樹恩』ということをお願いされるんですよ、ずっと大昔に。それは木がなければ人間は滅びてしまうと。」という文章から、『樹恩』（じゅおん）の語をいただき、また、都市と農山漁村の人々をネットワークで結んでいくとの意志を込めて、「JUON NETWORK」（樹恩ネットワーク）と命名しました。

SDGsとJUON NETWORK

JUON NETWORK の活動は、特に目標 15「陸の豊かさを守ろう」に直結していますが、その他にも、森林の楽校・田畑の楽校・樹恩割り箸などの活動が、目標 8「働きがいも経済成長も」、目標 11「住み続けられるまちづくりを」、目標 12「つくる責任つかう責任」、の目標にも貢献します。



JUON NETWORKがめざす未来と社会

ミッション (JUON NETWORKが果たすべき社会的使命)

都市と農山漁村が支え合うネットワークを
森林などをめぐる体験・交流・応援の活動によってひろげ、
持続可能な社会を創造する。

ビジョン (JUON NETWORKがめざす社会)

- 1 人が、自然（森林・田畑・河川・海）を持続的に活用できる社会。
- 2 農山漁村が、都市とともに持続的に存在できる社会。
- 3 若者が、人と自然、都市と農山漁村をつなぐ担い手として持続的に活躍できる社会。

バリュー (JUON NETWORKが大切にすること)

- 1 樹木などの恩恵に感謝し、自然とのつながりを大切にする。
- 2 農山漁村と都市の顔の見えるつながりを大切にする。
- 3 若者の学びと成長を支え、世代間のつながりを大切にする。
- 4 NPO、協同組合、企業、学校、地域コミュニティ、行政などのつながりを大切にする。

2024年度の事業のエッセンスをお伝えする ANNUAL REPORT 2024 をご覧いただき、ありがとうございます。新型コロナウイルス禍による制約がおおむね解消され、JUON の取り組みもほぼ順調に推移しております。森林の楽校や田畑の楽校をはじめ、屋外での活動も幅広く展開している状況です。ただし、猛暑に見舞われていますし、線状降水帯などといった表現にも頻繁に触れることになりました。リスクに留意する必要があります。関係各位のご尽力に改めて感謝申し上げる次第です。

2024年度ですが、1995年1月17日発災の阪神淡路大震災から30年という特別な年度でもあります。1998年設立のJUONですが、その誕生を促したのが震災後の学生寮の建設であり、大学生協と徳島県三好郡の林業関係者との交流でした（前ページをご覧ください）。そして30年後の現時点において、私自身、改めてJUONが生まれたときの思いに触れてみたいとの気持ちがありました。素材としては2020年度のREPORTでも紹介した『徳島 林政の現場に生きて～藤原利廣の軌跡～』などがありますが、今回はJUONの設立趣意書を読み直してみました。「30年前にそうだったのか」との印象があります。社会全体へのメッセージに満ちています。「20世紀の社会体制はすでに制度疲労を惹き起こし、いたるところに深刻な矛盾、欠陥を露呈」などとあります。も

ちろん西岡常一の『木に学べ』からの引用もあり、森林などの活動に取り組む姿勢が謳われています。『木に学べ』は文庫本としても増刷を繰り返しており、人々をJUONにつなぐ経路になるかもしれませんね。（「設立趣意書」に関しては本誌10ページもご参照下さい。編集部）

30年は世代が交代する期間とも重なるようです。JUONにとっ

ても、次の世代への継承が大切な課題です。このこととも関係しますが、最近では若手の学生や社会人の活動参加を促す工夫にも着手しています。大学生協などを通じた情報発信の充実に加えて、活動に参加する若手を対象に費用負担への配慮も試行しています。こうしたトライアルへの期待が大きいわけですが、単純に同じ取り組みを次世代に継承するだけでは物足りないようにも思います。若者世代には前世代や前々世代とは異なる着想や行動が形成されている面もあるはずです。農山漁村との関わりでは、田園回帰や関係人口への関心の広がりも指摘されています。新世代の特色に向き合うことはJUONの充実にもつながるでしょう。



会長 生源寺 眞一
(公益財団法人日本農業研究所
理事・研究員)

森づくり体験プログラム もりのがっこう 森林の楽校

JUON NETWORK では、日本の森林や林業、あるいは山村の現状を知らせ、森林を守ることの大切さを知ってもらうために、「森林の楽校」(もりのがっこう)を全国各地で開催しています。2024 年度は、全国 17 ヶ所で、31 回開催し、学生や若者を中心に、地元の方も含み 620 名(昨年:32 回 697 名)が参加しました。

森林の楽校では、間伐・枝打ち・下草刈りなどの体験をし、併せて農山村の地元の方たちと交流をし、その現状を実感します。

「森林の楽校」の開催(2024年度)

開催回数・参加人数

①白神山地 森林の楽校	秋田県藤里町	1 回 11 名
②会津高原 森林の楽校	福島県南会津町	1 回 28 名
③水源の森 自然ふれあい学習	群馬県みなかみ町	中止
④神の泉 森林の楽校	埼玉県神川町	3 回 70 名
⑤かずさの里 森林の楽校	千葉県大多喜町／千葉県睦沢町	2 回 64 名／2 回 51 名
⑥多摩の奥 森林の楽校	東京都奥多摩町	1 回 16 名
⑦トキの島 森林の楽校	新潟県佐渡市	2 回 24 名
⑧そばの里 森林の楽校	富山県南砺市	2 回 40 名
⑨おしっさまの里 森林の楽校	福井県越前市	4 回 53 名
⑩安曇野 森林の楽校	長野県安曇野市	2 回 52 名
⑪風の谷 森林の楽校	岐阜県揖斐川町	4 回 51 名
⑫キノコの森 森林の楽校	京都府亀岡市	1 回 21 名
⑬清流の森 森林の楽校	兵庫県宍粟市	1 回 25 名
⑭四国のへそ 森林の楽校	徳島県三好市	1 回 12 名
⑮さぬきの森 森林の楽校	香川県さぬき市	1 回 74 名
⑯四万十川 森林の楽校	高知県四万十市	1 回 4 名
⑰鳥の栖 森林の楽校	佐賀県鳥栖市	1 回 17 名
⑱つばきの里 森林の楽校	長崎県長崎市	1 回 7 名
☆雲の上 森林の楽校	オンラインボランティアプログラム	3 回 53 名

合 計
31 回 620 名

参加者より



林業体験など自然に触れ合い、教える方たちの情熱を知り、また世界遺産にも登録されている貴重なブナ林にも触れました。自然が豊かであれば、その栄養素で人の体も、森の波動で心も豊かになることを多くの人に知ってもらえる場所です。晩御飯や、朝ごはんも豪華で地元の人の温かさも含めて、楽しく体験することができました。

(白神山地 森林の楽校)



今回初めて参加させていただきました。軽い力で大鎌を振ると、スパスパと草を刈ることができてとても気持ち良かったです。整備が終わったスペースはスッキリし、達成感を感じました。めいっぱい体を動かせたことはもちろん、初めてお会いした年代もバラバラな方たちと、たくさんお話ができたこともよいリフレッシュになりました。

(多摩の奥 森林の楽校)



1 日目軽トラサウナ、2 日目林業について実習体験、3 日目カヌー。サウナは長く入ることができて楽しかったです。どの木を切るか、木の倒れる方向、ロープの張り具合など多くを学びました。カヌーはバラバラと雨でしたが、山に雲がかかっている景色がきれいでした。自然の中で初めての体験をたくさんして、すごく楽しかったです!

(四万十川 森林の楽校)

体験からリーダーへ 森づくりを担う人材の育成

森林保全を実際に形あるものにするためには、一定のフィールドにおける継続的な取り組みと、それに自主的に関わり、主体的に森づくりを担う人材の育成が不可欠です。

里山・森林ボランティア入門講座（旧森林ボランティア青年リーダー養成講座）

「森林の楽校」などで得た森林保全や森林作業への関心をいっそう育み、作業スキルの向上を図るために、東京、関西、四国にて、それぞれ年1回「里山・森林ボランティア入門講座」を実施しています。

● 東京



第26期となり、10月から翌年1月にかけて5日間で実施し、15名の参加がありました。

● 関西(京都・兵庫)



第18期となり、9月から翌年2月にかけて5日間で実施し、9名の参加がありました。

● 四国(徳島・香川)



第8期となり、9月から翌年1月にかけて6日間で実施し、6名の参加がありました。

資格検定制度 エコサバー

JUON NETWORKでは、環境や自然体験活動を主な内容とした資格検定試験である「エコサバー」を実施しています。サポーター、リーダー、シニアリーダー、コーディネーターの4つの段階があり、24年度は、リーダー養成講座を実施し、5名の参加がありました。

CONE（自然体験活動推進協議会）に参加し、里山・森林ボランティア入門講座とも連動させています。



定期的な森づくりに取り組む ヤングジュオン

「里山・森林ボランティア入門講座」の卒業生を中心に「東京ヤングジュオン」、「関西ヤングジュオン」、「四国ヤングジュオン」が、継続して森づくりに取り組んでいます。

● 東京ヤングジュオン

東京都奥多摩町の「鳩ノ巣フィールド」を拠点に、月1回の定例活動を続けており、「多摩の奥 森林の楽校」の運営も行っています。また、他団体と共に「多摩の森・大自然塾 鳩ノ巣フィールド」へも参加しています。なお、「おくたま海沢ふれあい農園」とタイアップした活動も行っています。24年度も各々開催しました。

● 関西ヤングジュオン

「清流の森 森林の楽校」と「キノコの森 森林の楽校」の運営を行っています。また、月1回の「亀岡自然塾」や「中坪・里山整備」などに参加しています。有志活動として、中坪の「高田ハウス」を活用した地域活動を7回行いました。



● 四国ヤングジュオン

「さぬきの森 森林の楽校」の運営を行っています。また、香川県丸亀市・本島で活動を行う準備を進めました。なお、「入門講座」実施のため調整も行っています。

企業や生協の森づくり活動への協力

JUON NETWORK が「森林の楽校」やヤングジュオンの活動などで積み上げてきたノウハウを、企業や生協の森づくり、所属する職員へのボランティア活動の場の提供などに活かしています。

企業の森づくり

NECグループ労働組合連合会	組合員とその家族が参加する森づくり活動のサポートをしています。24年度は千葉県大多喜町で竹林整備を4月と11月に2回実施しました。
太陽生命保険株式会社	栃木県那須塩原市にある「太陽生命の森林」にて、森づくり活動の協力や関連する企画のお手伝いをしました。24年度は「新入社員研修」含め3回実施しました。
株式会社チョイスホテルズジャパン (コンフォートホテル)	2017年度より支援をいただいております。社員や利用客の森づくり活動などに協力しています。24年度は、奥多摩町での活動を2回実施しました。
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	21年度より支援をいただいております。社員の方に森づくり活動に参加いただいております。
公益財団法人 三菱UFJ環境財団	1999年から、群馬県みなかみ町で、「森林の楽校」としては2番目に古い「水源の森 自然ふれあい楽習」を共催しています。

生協の森づくり

コープみらい 秩父の森	コープみらいが所有する「秩父の森」には2007年度より協力しています。24年度は、コープみらいの組合員が参加するイベントの実施(計8回)と、組合員有志による「森を守る応援団」(計10回)、「ボランティア体験講座」(計2回)のサポートをしました。
パルシステム東京 いなぎめぐみの里山	パルシステム東京が所有する「いなぎめぐみの里山」では、竹林の保全のため竹の伐採や、切った竹を使つての工作企画、そして年末恒例となっている「ミニ門松づくり」などの組合員参加企画のサポートをしました。24年度は、3回行いました。また、「ワークショップ」にも3回参加しました。
パルシステム埼玉「森林体験バスツアー」	埼玉県神川町で、組合員参加企画として23年度より開始しました。JUONはそのサポートを行っています。
生協の森づくり・体験企画 担当者交流会	森づくりや組合員企画として森林体験などを行っている全国の地域生協の担当者を対象に、3月18日に開催しました。参加者は42名(13生協2生協連合会、林野庁、国土緑化推進機構、JUON)となりました。



秩父の森



いなぎめぐみの里山



生協の森づくり・体験企画担当者交流会

多摩の森・大自然塾「鳩ノ巣フィールド」

JUON NETWORK が事務局を担当し、コープみらいの協力の下、毎月第3日曜日に開催しています。24年度は、毎月開催することができ、のべ158名(23年度161名)の参加を得ました。

間伐と国産材利用の大切さを伝える 樹恩割り箸

今、日本の森林は資源としての木が育ち、収穫期を迎えています。この資源を活用し、国産材をあらゆる機会に使用することが必要になっています。それにより、林業が栄え、地方や山村に産業が生まれ、地方の創生にもつながります。

森林の保全には、定期的な間伐などの手入れが必要であり、間伐された木が販売され林業として成り立つことも不可欠です。間伐材・国産材の「樹恩割り箸」は、それらのことを、学生をはじめ多くの方たちに伝えるために生まれました。24年度の利用は、984万膳（昨年1,047万膳）となりました。

■全国の大学生協の食堂で利用されています

樹恩割り箸は、1998年開始時は116万膳の生産でしたが、その後利用が順調に増え、2016年度には1400万膳となりました。その多くは大学生協が占めています。

大学生協では、食堂での利用のほか、数多く販売される弁当にも付けられ、次代を担う多くの学生たちに間伐の必要性和国産材の利用の大切さを伝えています。

■飲食店・宿泊施設などでも樹恩割り箸を利用しています

樹恩割り箸は、全国の飲食店や宿泊施設、お弁当屋さん、スーパーなどでも利用されており、約100以上の店・施設で利用されています。また、徳島県三好市の小・中学校では、森林環境贈与税を活用して、樹恩割り箸が提供されています。



＜徳島県三好市では全ての小・中学校の給食で＞

樹恩割り箸は、すべて福祉施設で製造されています

障害者にとって、仕事を持って働くことが生きがいにつながります。樹恩割り箸は、全国4ヶ所の知的障害を持つ方が利用する福祉施設で生産されています。箸の生産に携わることで、給与のアップや日々の生活の中でのモチベーションにつながっています。

■障害者が森や環境を守る手伝いができる

「障害者は何かをしようとする時に支援が必要な場合があるが、この事業では障害者が森や環境を守る手伝いができる。」これが、樹恩割り箸を生産する障害者や職員の拠り所です。従事する障害者は、日々自分の仕事に誇りを持ってその生産に取り組んでいます。

林業関係者の「森林を守りたい」「地域を活性化したい」という気持ちと、福祉関係者の「福祉への関心を深めてもらいたい」「障害者に誇りをもって仕事をしてもらいたい」、この思いが林業と福祉の連携という、先進的な取り組みとなりました。

樹恩割り箸を生産している福祉施設

あたご共同作業所
(福島県南会津町)

江南愛の家
(埼玉県熊谷市)

山の子の家
(東京都日の出町)

セルフ箸蔵
(徳島県三好市)



樹恩割り箸を「広告箸」として、大学生協に無料配布

大学生協の負担を260万円軽減

大学生協の食堂では、大学生協事業連合の「学び支援事業部」の広告事業として、従来より食堂のトレイに貼付した「トレイ広告」が普及していました。これと同じように企業にクライアントとなってもらい、樹恩割り箸の完封箸の袋にその企業の宣伝広告を掲載し、広告用として大学生協の食堂にて無料配布・活用してもらうことを、一昨年（2023年度）「学び支援事業部」に提案をしました。

JUON NETWORKとしては、23年4月

1日より樹恩割り箸の大学生協への納品価格の値上げを実施したため、各大学生協の経費負担を少しでも軽減するために、クライアントに広告料（割り箸代込み）を負担してもらい、無料で各大学生協に樹恩割り箸が配布されることを目的としました。

学び支援事業部では、JUONの提案に積極的に応え、実際に広告事業推進の委託を受けている「株式会社キャンパスサポート」が、トレイ広告のオプションの媒体として進めていくこととしました。

樹恩割り箸は、周知のように外材より割高と

なっており、他社の同じような広告箸と比較された時に競合的に弱い面もありますが、23年度には樹恩割り箸の「広告箸」が30万膳、24年度には53万膳、大学生協に無料配布されました。これにより大学生協の経費負担は、合計で23年度は約150万円、24年度は約260万円の軽減が実現できました。

価格に加え、広告掲載スペースが狭いなどの弱い面もありますが、JUONとしても今後新たなクライアントを獲得するなど、引き続き各大学生協への貢献を果たしていきたいと思えます。

寝食を共にして農業を応援 はたけ がっこう 田畑の楽校

農村において高齢化や過疎化が進む中で、繁忙期などで一時的に農作業を手伝ってもらえる人手は大変助かり、精神的にも励みとなります。JUON NETWORK では、泊まりがけでの援農活動である「田畑の楽校」（はたけのがっこう）を全国 4 ヶ所で進めています。

ぶどうの丘 田畑の楽校

山梨県山梨市牧丘地区

ぶどうの産地である山梨の風土に接しながら、澤登農園でのボランティア活動を開始してから約 20 年になりました。24 年度は、田畑の楽校を番外編、収穫祭も含め 1 泊 2 日で 8 回実施（参加者 62 名）。また、有志の自主的な活動が年間で 49 日行われました。ボランティアをきっかけに山梨へと移住して、これまでに 4 世帯がぶどう農家となっています。



北信りんごの里 田畑の楽校

長野県長野市篠ノ井地区

22 年度から新たに旧篠ノ井市の「庄田果樹園」をフィールドに、1 泊 2 日（宿泊は「ラポランドくろひめ」）で、花摘み作業 → 摘果作業 → 葉摘み作業 → 収穫作業を適宜行いました。昨年よりも 1 回増やし、年 6 回を実施しました。のべ 61 名が参加しました。なお、24 年度から有志活動がスタートしています。



南伊勢のみかん 田畑の楽校

三重県南伊勢町

三重県の南部、伊勢志摩国立公園の南玄関に位置し奥志摩として親しまれる南伊勢町は、伊勢神宮の自然林から続く豊かな森、山から海まで多彩な自然と、農村と漁村文化が混在する独自の文化が特色です。この南伊勢で、「南伊勢のみかん 田畑の楽校」が開催されています。24 年度は、9 月 28 日・11 月 17 日・12 月 8 日に開催され、のべ 25 名の参加がありました。2 月には番外編も開催されました。



熊野の棚田 田畑の楽校

和歌山県那智浦町色川地区

今や人口の約 4 割が新規定住者という全国でもめずらしい地域です。「農業」「田舎暮らし」という言葉がちょっと気になるという方に好評です。田植え、草取り、稲刈り、わらまき、畦削ぎなど棚田でのお米づくり体験ができる 1 泊 2 日の楽校です。24 年度は、年 4 回開催され、のべ 12 名の参加がありました。



廃校を活用したセミナーハウスなど

JUON NETWORK の設立にあたっては、廃校を活用した施設の設立や運営をしていた方たちの大きな尽力がありました。その施設のある地域は、現在でも森林の楽校を開催する拠点となっているところが少なくありません。

- ①「白神ぶなっこ教室」秋田県藤里町
- ②「鳥越文庫」新潟県佐渡市
- ③「Starforest 利賀」富山県南砺市
- ④「ラーニングアーバー横蔵」岐阜県揖斐川町
- ⑤「四万十楽舎」高知県四万十市



star forest 利賀

各「地域ブロック」の活動

JUON NETWORK の全国ネットワークは、6 つに区分けされた「地域ブロック」によって構成されています。各ブロックでは「世話人会」を中心に、森林の楽校やブロック独自の活動、会員相互の交流などを進めています。

北海道東北地域ブロック

年1回行われる「会津高原 森林の楽校」（福島）を中心に活動しており、地元の方との交流や、樹恩割り箸を製造している「あたご共同作業所」の見学も行っています。また、「芋煮会」が定着し、24年度は25名の参加がありました。

関東甲信越地域ブロック

24年度も、千葉県船橋市にある「飯島農園」で、野菜の収穫体験や竹林整備を行いました（計12回、のべ185名の参加）。また「安曇野ツアー」も5回開催し、のべ39名の参加がありました。

東海北陸地域ブロック

「風の谷 森林の楽校」（岐阜）と「そばの里 森林の楽校」（富山）を中心に活動しています。また、地域の様々な企画に協力しています。

関西中国地域ブロック

「キノコの森 森林の楽校」（京都）と「清流の森 森林の楽校」（兵庫）を開催しました（参加者計46名）。24年度の企画は、中坪地区（兵庫・宍粟市）での活動を中心に、「町並みと民家を訪ねる会」も実施しました。

四国地域ブロック

徳島では、「森林の楽校」と「樹恩割り箸」の発祥の地として、現在もこの2つを中心に活動しています。香川では、「香川会」として独自の活動を進めており、24年度も「さぬきの森 森林の楽校」と「里山・森林ボランティア入門講座」を行った他、本島での準備活動を行いました。

九州地域ブロック

毎年開催していた「つばきの里 森林の楽校」（佐賀・長崎）を「鳥の栖 森林の楽校」（佐賀）と「つばきの里 森林の楽校」（長崎）に分けて開催しました。引き続き大学生協の学生や職員と地元の方の協力が進んでいます。24年度は、2つの森林の楽校へ合わせて24名の参加がありました。



●芋煮会



●安曇野ツアー



●中坪・竹林整備&タケノコ堀り

地域の拠点づくりを目指す 高田ハウス

長年「清流の森 森林の楽校」を開催してきた兵庫県宍粟市一宮町・中坪地区において、空家である古民家をお借りし、活動の拠点としています。

活動の際の宿泊場所として、また、地域住民との恒常的な交流の場として活用して、9年が過ぎました。



阪神・淡路大震災から30年 JUON NETWORKの原点

死者 6,434 名、行方不明者 3 名、負傷者 43,792 名。全壊家屋 10 万 5,000 棟、半壊 14 万 4,000 棟の被害をおよぼした阪神・淡路大震災から 30 年が経ちました。この震災への支援活動から誕生した JUON NETWORK。その設立趣意書から、JUON NETWORK の初心に立ち返し、今後の活動の支えと多くの方への呼びかけとします。

* JUON NETWORK の設立の経緯は、本誌 2 ページを参照して下さい。

JUON NETWORK 設立趣意書 (1998 年 4 月 27 日) より

27 年前、当時の社会状況をどう捉えていたか？

『政治、経済の混迷と停滞、過疎・過密の深刻化、所得格差の拡大と失業の増大、政治上経済上の各種のスキャンダルから麻薬・犯罪・非行などの激増そして地域・民族紛争の続発にいたるまで数えあげれば際限ありませんが、なかんずく一方で人と人との社会的・人間的関係が希薄になり、子供から老人にいたるまでの平安な充実した生活がおびやかされていること、および地球環境の破壊がいたる所でいろいろな形で急進し、人類のみかすべての生物の生存そのものがおびやかされていることが重大です。』

⇒大半は現在にも共通し問題によっては深刻化。特に「地球環境の破壊」は切実です。

何を目指し、JUON を設立したか？

『われわれが目指すのは、全国の都市と農山漁村の住民および国や自治体の関係者をネットワークで結び、森林・河川・湖沼・海浜などの環境と景観の保全改良、地方文化の発掘

と普及、過疎過密問題の解決、不時の災害の救済・復旧などにたいする国民各層のボランティア活動を支援し拡大強化すること、そしてそれを通じて広く人々の間に連帯と協同の輪を広げていくことにあります。』

⇒この 27 年間、一貫して実践してきています。持続可能な社会へとつなげます。

私たち一人ひとりに、何を求めたか？

『何よりも、われわれ一人一人が、他力本願で国や企業に頼るのでなく、自立・自助の志を強め、お互いに助け合い、知恵と力を出し合って身近なところから少しでも事態の打開を図ること、そしてそれを通じて新しい価値観と生活様式とを創造していくことが不可欠であると考えます。』

JUON NETWORK はこういう一人一人の努力を結集し、大きな力のかたまりとし、21 世紀を創り出していくための組織です。』

⇒なお力不足ですが、少なくない方たちが参加してきています。更なる拡充を目指します。

第 27 回総会と記念イベントを神戸で開催

阪神・淡路大震災から 30 年を迎えた今年、「第 27 回総会・記念イベント」を、全国大学生協連の協力も得て、6 月 21 日に神戸の甲南大学で開催しました。

当日は、設立当初役員だったシニアの方たちから大学生協の関西北陸ブロックの学生まで幅広い 80 名の参加者を得、JUON NETWORK の「過去」「現在」「未来」をテーマに 12 名の登壇者の報告を中心に、当時の支援活動から JUON の設立、30 年間の実践と現状、そして未来に向けての JUON を探る内容となりました。

冒頭の小林正美副会長の震災発生から JUON 設立に至る「動画」(<https://www.youtube.com/watch?v=syf9O7zCFV8>)には学生たちも感銘を受け、甲南大学の学生グループ「Bamboo に Thank you Project」の報告にはシニアからも強い共感と関心が寄せられ、



世代を超えた交流から、これからの JUON の活動の指針となるヒントを得る総会・記念イベントとなりました。



JUON NETWORKの概要と運営

ゼロから出発した JUON NETWORK は、24 年 4 月 27 日に設立から 27 年となり、
多くのボランティアや団体会員の皆さまのご尽力によって、安定した組織運営と財政を実現しています。

■JUON NETWORKの概要

名 称	認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK
代 表	会長 生源寺眞一
設 立	1998 年 4 月 27 日 徳島県池田町（現・三好市）にて設立総会 1999 年 11 月 25 日 特定非営利活動法人格を取得 2011 年 6 月 1 日 認定特定非営利活動法人に認定
機 関	最高議決機関＝総会 その他＝理事会（年 3～4 回）・ 常任理事会（年 4 回）
会 員	個人会員 468 名・学生会員 39 名・家族会員 26 名・ 団体会員 91 団体（2024 年度末現在）
会 計	経常収益 3,186 万円－経常費用 2,837 万円＝経常増減額 349 万円 （2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）



■会誌 （5月、8月、11月、2月発行）



■割り箸ポスター



■役員（2025 年度）

会長	生源寺眞一（公益財団法人日本農業研究所 理事・研究員）
副会長	小林 正美（有限会社樹庵 代表取締役） 中森 一郎（全国大学生生活協同組合連合会 専務理事）
常任理事	大本 隆史（日本コープ共済生活協同組合連合会 職員） 澤登 浩二（澤登農園） 瀬川 大輔（全国大学生生活協同組合連合会 理事・副学生委員長）
理事	浅沼 由紀（関西中国地域ブロック 世話人） 大井 康成（生活協同組合コープみらい 執行役員・東京都本部長） 大野 泰広（大学生協事業連合九州地区 常務理事） 鹿住 貴之（認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK 事務局長） 佐藤 敬一（東京農工大学 非常勤講師） 重元 勝（コーディネート研究所 代表） 田中 康治（宮城教育大学生生活協同組合 専務理事） 玉中 健太（株式会社山弘 社員） 寺尾 善喜（日本コープ共済生活協同組合連合会 職員） 中前 明（社会福祉法人池田博愛会セルフ箸蔵 施設長） 野尻 郁智（大学生協事業連合 常務理事） 藤田 和則（東海北陸地域ブロック 世話人） 渡部 孝二（特定非営利活動法人あたご 副理事長）
監事	新井 明（大学生協事業連合 常勤監事） 佐藤 智之（全国大学生生活協同組合連合会会員支援部 職員） 佐藤 宗治（鹿児島大学 名誉教授）

■活動計算書

（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	金 額
経常収益	
受取会費	8,318,000
受取寄付金	16,522,289
受取助成金等	1,341,814
事業収益	5,657,116
その他の収益	19,787
経常収益計	31,859,006
経常費用	
事業費	
人件費	10,979,506
その他経費計	13,464,621
管理費	
人件費	2,586,174
その他経費計	1,340,510
経常費用計	28,370,811
経常外収益	0
経常外収益計	0
経常外費用	0
経常外費用計	0
当期正味財産増減額	3,488,195
前期繰越正味財産額	63,615,519
次期繰越正味財産	67,103,714

JUON NETWORKへの支援

JUON NETWORK がより充実した活動を展開するために、一層の活動資金を必要としています。

今後も、JUON NETWORK への物心両面のご支援をお願いいたします。

団体会員の皆さま (2025 年 3 月 31 日現在／順不同)

一般企業 (13)

(株) キャンパスサポート
(株) 光陽メディア
(株) コープリビングサービス
(株) ダンクソフト
(株) 山城もくもく
(株) ラボランド
共栄火災海上保険 (株)
ジボダンジャパン (株)
新日本管財 (株)
太陽生命保険 (株)
グッドウィル・サークル友の会
ヤマキ醸造 (株)
(有) 樹庵
(有) D-Factory

社会福祉法人など (6)

(社福) 池田博愛会セルブ箸蔵
セルブ箸蔵保護者会
(社福) 池田博愛会箸蔵山荘
(社福) 江南愛の家
(社福) 山の子会 山の子の家
(社福) ワークサポートやまなみ

NPO 法人など (7)

NPO 法人 あたご共同作業所

NPO 法人 グリーンツーリズムとやま
NPO 法人 トチギ環境未来基地
NPO 法人 日本の竹ファンクラブ
(一社) 西土佐環境・文化センター
四万十楽舎
おくたま海沢ふれあい農園
沢登農園

行政・組合など (6)

三好市役所
南伊勢町水産農林課
吉野川 (三好) 流域林業活性化センター
全国森林組合連合会
三好西部森林組合
NEC グループ労働組合連合会

地域生協など (5)

コープみらい
とくしま生協
東京都生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
日本生活協同組合連合会

大学生協 (54)

岩手大学生協
山形大学生協

東北大学生協
東北学院大学生協
宮城教育大学生協
尚絅学院大学生協
福島大学生協
桜美林学園生協
慶應義塾生協
芝浦工業大学生協
電気通信大学生協
東京学芸大学生協
東京工芸大学生協
東京農工大学生協
一橋大学生協
明治薬科大学生協
和光学園生協
早稲田大学生協
大東文化学園生協
埼玉大学生協
横浜市立大学生協
横浜国立大学生協
茨城大学生協
宇都宮大学生協
群馬大学生協
高崎経済大学生協
新潟大学生協
東京インターカレッジコープ

名古屋大学生協
愛知大学生協
金沢大学生協
富山大学生協
富山県立大学生協
京都大学生協
大阪大学生協
近畿大学生協
神戸大学生協
関西学院大学生協
甲南大学生協
神戸市外国語大学生協
兵庫県立大学生協
岡山大学生協
鳥取大学生協
広島大学生協
愛媛大学生協
松山大学生協
徳島大学生協
大学生協 中国・四国事業連合
北九州市立大学生協
長崎大学生協
長崎県立大学佐世保校生協
宮崎大学生協
大学生協事業連合
全国大学生生活協同組合連合会

協賛団体の皆さま (2024 年度)

MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ
OSUSO ((株) アスタス)
(株) グリーンス/
(株) チョイスホテルズジャパン
認定 NPO 法人 サービスグラント
(株) SOLIO

(公財) SOMPO 環境財団
東京ガスグループ/
(公社) 日本フィナンソロピー協会
(公財) パブリックリソース財団
ピープルポート (株)
BESS フォレストクラブ

ハチドリ電力 ((株) ボーダレス・ジャパン)
三井住友 DS アセットマネジメント (株)
三井ダイレクト損害保険 (株)
三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券 (株)

ご支援いただき
ありがとうございます！

みなさんの会費や寄付が、JUON NETWORKの活動を支えています

JUON NETWORK の活動は、みなさんからの会費や寄付で支えられています。趣旨や活動に賛同し、ご支援いただける方のご入会やご寄付を募集しています。なお、JUON NETWORK は認定 NPO 法人であり、2,000 円を超える寄付は、寄付金控除の対象となります。

会費 (年会費)		
個人会員	一般	4,000 円
	学生	2,000 円
	家族	2,000 円
団体会員	一口	30,000 円

りそな銀行 新都心営業部 普通 3699047
名義：特定非営利活動法人 樹恩ネットワーク
ゆうちょ銀行 ○一九 当座 0026902
口座名：JUON NETWORK
郵便振替 口座番号：00110-9-26902
口座名：JUON NETWORK

【クレジット決済】

国際ブランド (VISA、MASTER) のいずれかのロゴがついていれば、ご利用可能です。



認定NPO法人 JUON NETWORK

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館内

TEL：03-5307-110 / FAX：03-5307-1091

E-mail：juon-office@univcoop.or.jp / URL：https://juon.or.jp